

第四回 文化祭盛大に開かる

日舞の発表会



昭和六十年度第四回津奈木町文化祭が十一月八、九、十日(三日間)海洋センター及び改善センターで盛大に行われた。

十日夜には発表部門の吟詠、日本舞踊歌謡が行われ、自慢のノドや舞いが七百人の参観者をうっとりさせていた。特に日本舞踊はすばらしく二時間三十分の時間が早く感じる見事な発表会であった。

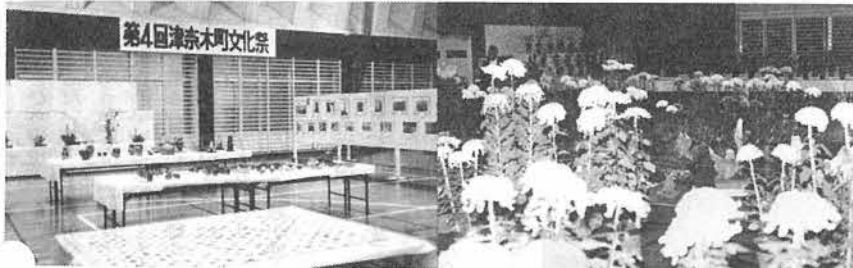
また、午後一時から行われた町長杯カラオケ大会も、ちびっこ達とは思えないノドで歌を披露して

いた。

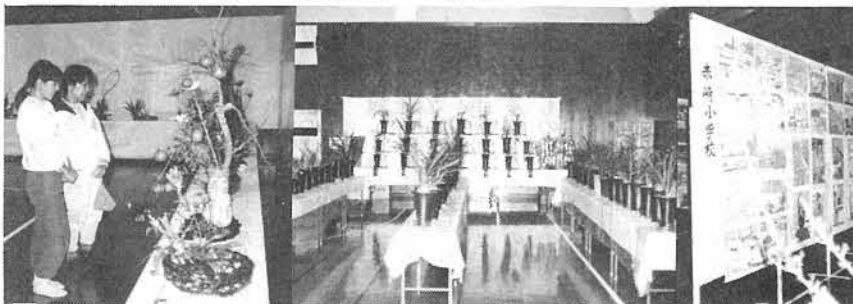
九日午後三時から、改善センター二階では、囲碁、将棋大会も行われ、二十四名で夜遅くまで熱戦が展開された。

一方、海洋センターの展示部門は、八日全員で展示、審査を終了し、十日午前十一時より入賞者の表彰式を実施、九、十日の両日一般公開をした。

菊、寒蘭、陶芸、写真、その他の作品が今までにないすばらしい物が出品された。



▲海洋センター会場



生花は夜遅くまでかかって準備し三十四点が花を添えた。本年度から、小中学校児童生徒の作品も出品された。小学一、二年の硬筆、三年以上の毛筆そして各学年から図画、総数四百点あまりが一同に展示したことで参観者も急激に増加し、期間中、町内の全町民が、文化の祭典にひたる事が出来たことは、全員自らの努力は勿論であるが、町当局、教育委員会の後援や御指導があつて初めて成功したものである。

庁舎美術館(四) 港の廃墟

松本 得三 作



応接室に展示

秋も終わりの頃、その日はどんより曇っていて、可成り強い風が吹いていました。鹿児島最北端の港米ノ津を訪れた私の目を最初にとらえたものがこの荒れ果てた感じの建物でした。岸壁に近い所では水溜りが出来ていて、自動車の轍が幾本も走っている様が、私の面影をそそったものでした。でも作品完成後(数ヶ月後)再来した折、建物の前面に廻つたらそこに洗濯物が干してあるのを発見して吃驚したり我が早とちりが悔やまれました。(他に「北西風の吹く日」を一階に展示、係より)

老人大学で 学んだこと

十月十五日午後二時から、赤崎会館において、老人大学が開講され熊本県消費生活センターの井上順子先生を講師にお願いしました。

演題は、「お年寄りのために訪問販売を受けた時の注意」ということで、お話をいただきましたが当日は、日添、日当而老人クラブ

私は、八月三十一日から九月十合同で九十名位の参加があり、皆熱心に勉強いたしました。御承知のように経済の低成長期と言われる現在、品物が二、三年前にくらべ非常に売れなくなっていることに反映して、訪問販売や、通信販売その他、我々老人には解釈しにくい催眠術等、活発に数多く私共の周辺に押し迫っております。又、老人はほとんど留守番役が多く、加えてこの頃の老人はお金持ちと見られていて、悪質なセールスマンはいろいろな方法で迫ってきます。又老人は、情に弱いことにつけてくる。泣きおとし型商法で迫ってくる。そんな手にのらないようにころばぬ先の杖として、かしこい

以前赤崎婦人会館で、品物を只であげるからと、老人を集めると安物を買っている内に、セールス

赤崎地区の老人会員には、絵図入りで分り易く解説してある本を配布し、我々老人達で勉強し、解決して行きたいと思ひます。これからも、老人大学で色々な事を学んで行きたいと思ひます。(諫山繁敏 記)



第14回「九州青年の船」に参加して

林田 良治

赤いハンカチ

三日までの二週間の日程で、中国特に、天津・北京・上海・杭州の四ヶ所を参観して来ました。

船上での 台風十三号

八月三十日、県庁での出陣式を終えて、佐賀県唐津港へと向かいました。翌日の三十一日に出航式を行なう予定でしたが、夕方から雨がふり出し、風が出てきました。台風十三号の九州上陸を船上で知りました。予定を変更し、出航式は中止、船上でのウェルカムパーティーも翌日に延期となりました。食卓では、食器が割れ、私達の部屋では缶ジュースがテーブルの上消費者として、被害を未然に防止して欲しいと長時間にわたって、お話しして下さいました。私は先般私用で水俣に行きお昼頃自宅に帰りまして、丁度玄関に若い青年が「御免下さい」と言っていた。私を見ると、「お父さんお宅のトイレファン危いし、漏電しそうです。取り替へませんか」と、しつこく言いますので、私は、きっぱり、「取替等は、息子が行いますので」と断りました。私は講演を聞いていたのだから訪問販売だと直感したから出来たことでした。

今後は、契約・クレジット、そして悪質なセールスマン等が来ても、話にのらないようにしたいものです。

9月2日、天津入港。天津新港を滑り落ち床にこぼれたり、もちろん船酔いもして苦しい出航となりました。明るく日は、しけもおさまり暖かな海。天津新港。あとも一時間すれば中国の第一歩を踏みおろせるという喜びを感じました。船は天津新港に係留され、私達団員は一班から十班まで全員デッキに整列し、下船していきます。その時、ドラや子供達の声が耳に入りました。いよいよ私達五班の番がやってきました。一生懸命演奏し、赤いハンカチを振り、踊る子供達に新鮮な喜びを感じました。文字通りの熱烈歓迎ぶりに目を見はりました。輝きのある目、その動き、中国の人々の暖かさを感じました。それから十台のバスに分乗し、その夜泊まる予定の天津賓館で昼食をとりました。

郷土芸能復活

染竹地区の棒踊



十一月九日、あけぼの橋開通式の時に踊りました。津奈木町の郷土芸能である棒踊りを紹介したいと思います。

棒踊りの発生地は、鹿兒島とされておられ、それから、水俣市の久木野へ伝わり、染竹へ伝わって来たといふこと。染竹へ伝わって来てもう六十年余りなるといふことだったので、かなり前から踊られていたといふことになりました。

その由来は、西南の役の時、勝った祝いとして踊られたなど、ほかにもいくつか言い伝えがあるようです。

踊り方は、男は手になきた、

福山君 県教委賞に輝く

第十回全国児童生徒木工工作コンクール県大会が開かれた。平小から次の三名の児童の作品が入賞。特に県教委賞に輝いた福山俊輔君の作品外二点は、来年広島県で開かれる全国大会に出展される。

入賞者は次のとおり(全員平小)

◇木工工作
県教委賞 福山俊輔君 六年
KKT賞 野崎伸也君 五年
県木材事業協組連賞
松本 好君 六年



喜びの福山君

肥後狂句

堀 双岳 選

留守番 何かなるか冷蔵庫
罰かぶり 人を泣かせた裏の来て
留守番 電話ばかりさでかから
罰かぶり 次から次イ思わす
留守番 今日勉強せんでエエ
罰かぶり 久次郎さん呼びびい
いかす
留守番 戸棚のおはきうち食うて
罰かぶり ちよか飯炊く橋の下
堀 双岳
次の笠
給んちよ。怪しい。一笠二句宛
一月十日まで、公民館へ。

白浜美和子
くすの葉の葉裏返して吹く風に濃
きむらさきの花房ゆるる
間伐の杉にて建てし鶏小屋にひね
もすびく夫の梶音
寺本ツルヲ
承えし甲斐もありけり三十五人
の孫子に囲まれ金婚の祝い
いばらの道ともに越えて五拾年
妻も霜髪われも霜髪
鳥居 保
台風のと痛々し数知れぬ青き密
柑のむくろを見たり
ひまわりは太陽の光身に浴びてゆ
らりと高く吾を見ている
佐々木しずえ
置き処なき聲さすもいずこ去れば
涼風そよぐ里の海辺は
九才の孫が画きし吾の顔しわまで
あるをわれは笑えす
柳迫いづも
口笛をたくみに吹いて素朴なるア
イヌの踵今に伝える白老の町
野田浦子
台風の仮借ゆるさぬ咆哮に全山の
木々をねりて耐ゆる
西 滋子
われの齢にすでにまかりしわが母
の面影しのび二十五回忌
福田ヤエ子
柿の葉の舞い散る夕べ秋ふかき空
にあかねの夕陽を見る
浦田和則
ただならぬ物飛音す夜の戸に闇
を圧して風の咆哮
老いし身にあらわれ一握の歎重し疲
るれば帰る刻を選ばず
小嶋正弘

短歌

小嶋正弘 選

特選
秋の夜の潮の音はひたひたと寄り
添うごとく吾に満ちくる
西 滋子
佳作
ただけしく台風過ぎて無惨なり
梅の古木を二つに裂きて
空澄みて稲の穂ゆらぐ田の畦に炎
のごとく彼岸花咲く
片桐真代
滔々と流る水よ岩肌のまろみ愛
でつつ夏の山川
仏舎利の骨ぬりこめしほとけに
まなこ凝らせば無何有も見えむ
小嶋正弘

詩 痴呆昭雲

(斉藤 治作)

産み落された幼年期
極貧育ちは我が宿命
生き延ぶだけが命懸け
夢にも浮かべぬ学問も
遙か彼方の囁きで
望めぬ願いと諦めし
飯より好きな学問が
七十過ぎてやって来た
寝ても覚めても学問だ
飲む遊ぶ欲出ずな
語学哲学哲学と

一度と帰らぬ此の世にて
極楽浄土の悟りまで
登り詰めたら暇乞い
叩けるでないぞ八十爺



青少年健全育成について

津小 本山 巖

去る九月十六日、改善センターで、町の青少年健全育成会が開催され、熊本家裁の主任調査官、米村静也氏の講演を拝聴した。氏は大人社会の問題を痛烈に批判された。青少年問題の因果を解折されていた。無免許大人の子忘れ行為、離婚にかかわる親権の問題、家庭環境問題に触れられ、青少年非行は、むしろ大人からの被害であり、非行少年は孤独である。異性問題も欲求不満の表れであり、不特定多数の愛を探索して失敗している。親のモデルに乏しく、感化、情操の体得の場が不足している。母親が子に体験させる必要感がわかない。その機会を設定しない。

利用しております

この度、川内地区、肥薩陶器互販売有限会社、西平弘美氏より津奈木中学校へ西平文庫を寄贈頂き、誠に有難うございました。早速、新しい書架を購入させて頂き、図書室が生き生きとして参りました。職員、生徒とも図書室経営充実への新しいスタートを切ることができ、心より感謝致しております。本校は、各小学校から生徒達が集まって参ります。豊かな感受性を持った中学生の時期に、自分の見る目、考える力を読書によって培うことはとても大切なことです。



西平 文庫(津奈木中図書室)

町誌こぼれ話

加藤清正の禁制札(続)

岡本 秋徳

津奈木の皆さんの中には、毎週水曜日の午後八時から放映されているNHKテレビドラマ「真田太平記」を視聴されている方も沢山いらっしゃるでしょう。去る十月十六日は、第百六回「決戦関ヶ原」が放映されましたが、津奈木が加藤清正の領地となったのは、実はこの関ヶ原の戦いが契機となったのです。

「肥後国誌」には、天正十五年(一五八七年)豊臣秀吉が島津征伐を行った直後、津奈木・水俣は清正の領地になったように書かれており

心豊かな子供を育てる運動

これは全ての児童が、健やかに育つために全国民児協で提唱されたものであるが、親として、地域住民として、家庭を、子供をとりまく環境を、もう一度見直し、心構えを新たにするための運動であります。

心豊かな子供とは、

①心のあたかな、うるおいのある子供

②心の落着いた、じっくり考えて

として統治されていたのです。慶長四年(秀吉死後)になって、津奈木と水俣は、キリシタン大名小西行長領となりましたが、小西領から加藤清正の領地になるまでの経緯について、述べてみることにいたします。

慶長五年(一六〇〇年)九月十五日午前八時頃から東軍(徳川家康)の先制攻撃ではじまった関ヶ原の戦いは、小早川秀秋・毛利秀元・吉川広家らの裏切りによって、西軍(石田三成方)の大敗北となりました。戦いが終わったのは、午後三時少し前であったといふことです。西軍に属して敗れた小西行長も、一応、伊吹山中にのがれましたが、糟賀部村(現春日村中山)で自ら進んで縛についたのは、戦いが終わった五日目の九月十九日のことです。